

各支部長・専門部長 様

千葉県教職員組合 中央執行委員長 渡邊 郁哉

県教委に教育予算拡充を求める署名を提出！

千教組は、12月22日県本庁において、署名の提出を行いました。千教組組合員で集めた39,933筆の署名を千葉県教育委員会 富塚昌子教育長に手渡しました。

冒頭、渡邊委員長から富塚教育長に「千葉県の子どもたちが、『千葉で学んでよかった』という実感を持ち、将来の日本、また千葉県を思い活躍できる人材になるよう、日々の職務に努めていく。現場教職員の声に耳を傾け、千葉の子どもたちのために、よりよい教育環境や教育制度構築にご尽力いただきたい。」と伝えました。



要求書提出とともに、以下のことについて、古川書記長から学校現場の様子を含めて伝えました。

- ①学級編制基準の改善、学校教職員定数改善、学級数による増置教員の配置基準緩和
- ②小学校専科教員の全校配置
- ③少数職種へのサポートも含めたスクールサポートスタッフの全校配置
- ④産休及び育休に係る代替教職員の完全配置
- ⑤安心・安全な学習環境の整備支援、定期的な専門家による点検の実施
- ⑥暫定再任用、臨時採用教職員、会計年度任用職員の賃金改善
- ⑦教職員賃金水準の改善・業務量削減
- ⑧GIGAスクール構想で整備された設備や機器に関わる予算の確保

富塚教育長から、「国に対しては引き続き要望していく。増置教員や県単独加配については財政当局と折衝し、苦心している。人材の確保は県としても最重要課題としている。『ちば夢チャレンジ特別選考』をはじめとする採用選考の改善やたまプロ生の選考メリットの拡充等を行っている。また、大学1年次から学校現場を体験し、魅力を感じることができるよう千葉大学と連携している。千教組の皆さんと全く同じ思いである。皆さんの声をしっかりと受け止めて、今後も政策をすすめていくとともに、今後ともぜひ皆さんの声を届けてほしい。」と回答をいただきました。

署名行動は、有効なとりくみです。活動を通して、組合員同士が教育課題について共有し合えます。数の力で相手方に私たちの思いを伝えることができます。厳しい状況の中でも、継続してとりくんだことで、実現してきたことがたくさんあります。活動の意義を組合員が理解し合い、みんなで協力し合って、これからもとりくんでいきましょう！